

令和4年度 第2回南部町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 令和4年12月1日(木) 午前10時00分 開会
午後12時05分 閉会
- 2 開催場所 南部町役場本庁舎 2階 大会議室
- 3 出席者
・町長 佐野 和広 ・教育長 入月 一巳 ・教育長職務代理者 山本 純司
・教育委員 望月 正宏 ・教育委員 望月 聡美 ・教育委員 渡邊 正志
- 4 事務局等の出席者
町長部局 秘書政策監 小倉 弘規 総務課長 渡辺 雄治
教育委員会事務局 学校教育課長 近藤 利也 アルカディア課長 尾崎 龍次
生涯学習課主幹 望月 亮一
- 5 協議事項
(1) 南部地区の小学校適正配置について
(2) ICT教育の取り組み状況について
(3) 中学校部活動の地域移行について
(4) その他
- 6 議事経過の概要
次のとおり

1 開 会 (山本教育長職務代理者)

皆さん、おはようございます。朝夕の寒暖差も大きくなり木々の色合いも随分と濃くなって、また、落ち始めているような時期になりましたが、このところやはり気になるのが明日、早朝のサッカーではないかと思えます。以前もそうでしたが、サッカーの大会になると必ず話題になるのが日本人サポーターの清掃の様子がSNSで今回も随分と紹介され、また、日本チームの使用後のロッカーの様子を私も写真で見ましたが、すばらしいなと思いました。一方、SNSでそれは如何なものかとの意見も出ています。両面あるということが事実だとは思いますが、しかし、日本人としてその様な積み重ねをしてきているということも大事であるということと、この民族性がある意味で世界基準にも結び付いていくと良いのかなと思いました。やはりそういう様子を子どもたちがどういうふうに捉えて、どういうふうを考えていくかということが、とても大事だなと思いました。大人の持っている考え方と、今から未来に生きていく子どもたちの考えをどう醸成していくか、そういうことが大事だと思いました。本日は総合教育会議の第2回目となりますが、そういう視点で検討していければ良いのかなと思えます。よろしくお願ひします。

2 町長あいさつ

おはようございます。今日もいくつかのテーマがありますが、南部町の教育に関しましては、やはり前から言うように特色があり県下でも先駆けたようなものであってほしいなと思っています。3日ほど前になりますが、知事から電話があり30分ほどいろいろと話をし

ました。内容はと言いますと、中部横断道が開通してから峡南5町の発展を確かなものにするためにネクスト共創会議が始まっていて、観光であり、教育であり、企業との関りなど、その中で知事は、皆さんに公約をしました25人学級についても話をされました。これは彼の心底から思う気持ちであると感じました。南部町でも栄小学校で複式学級が始まると聞いていますが、知事が広島県福山市での視察の様子を話してくれました。市内から少し離れると小さい小学校もあり、1年生から3年生までを同じ教室に集めて授業をやっているととても良い効果を上げているとのことでした。南部町にとっても少し似通っているところがあるので参考になりますねと話しました。先進事例としては、やはり成功しているところを視れば当然に参考になりますので機会があれば是非とも視に行きたいなと思っています。

昨日ですが、知事の事務所へ寄ってきました。国から県にいただける国庫支出金の現状が分かる資料があり、災害に対するものを除きこの4年間で2倍になったというものでした。何をするにしても、私もそうですが、町政を預かった場合にいろいろな意見がございます。あれしてほしい、こうしてほしい、あるいは、こういうことをしたらどうだと言われますが、でも、その基本となるのはやはり財源です。財源がなければいかに良いことを言っても絵に書いた餅になってしまいます。ですから我々も大変な時ですが、しっかりと財源を確保し、教育には力を入れようと思っていますし、その思いは今でも変わりありません。

それから今回、国の方からまた臨時交付金が出ました。南部町では18歳以下の子どもさんたちに1人5万円を給付します。子育てにはお金が掛かりますので、他の市町村にはないような形で支援をしたいなと思います。

教育には力を入れる。これは私が前から言っていることですが、そのためには今できることは何なのか、南部町として、それを大いに話し合っていていただいて、そうすればそれに対して予算付けしたいなと思っています。昨日の予算編成会議でも職員に対して話をしましたが、皆さんが思っていることを是非とも言ってほしいと、できることは積極的にやりますよと、そうすることによって皆さんの意見が通って、それが町づくりにつながる。こんな良いことはないのではと話をしました。教育委員会、総合教育会議の中でもいろいろな意見が出ましたら、また皆さんと一緒に協議しながら、極力皆さんの意向に沿うような形での対策を練っていこうかなと思っています。簡単ですがあいさつとさせていただきます。

3 教育長あいさつ

皆さん、おはようございます。本日は大変お忙しい中をお集まりいただきありがとうございます。今日は12月1日ということで、早いもので12月に入りました。昨日、南部中学校では、もう2年間できていなかった芸術鑑賞教室が行われ、渡辺修考先生が書いた作品をモデルにした「富士川物語」が上演されました。渡辺修考先生も会場にお見えになり、子どもたちに直接話をしてくださったということで、百歳を超えているのにも関わらず、本当に矍鑠として堂々と話をされたそうです。校長先生からも大変良い鑑賞会ができたとの報告を受けております。また同じように生涯学習の関係では、昨日は天気も良い中、昇仙峡のウォーキングが行われ、43名の方に参加いただきました。やはりこちらの方も景色の良い中を6キロメートルほど歩いて、大変良いウォーキングが出来たとの報告を受けております。

振り返ってみますと昨年から今年にかけて、特に今年は学校教育、生涯学習、アルカディア課の関係もそうですが、行事に制限を加えながら、工夫をしながら、行事そのものについ

ては粛々として行ってきました。その様な中で、やはり感じるのは、昨年に比べると今年は、教育委員会全体が忙しくなってきたということを感じています。なぜかという、今までできなかった行事が今年は予定通りに行われてきている。その分だけどうしても負荷が掛かってきている。でも見ていると忙しいけれどもものすごく充実しているように感じます。これからはいろいろと工夫をしながら実りあるものができるように頑張っていきたいなと思っています。さて、今日をご案内のように第2回目の総合教育会議ですが、南部地区の小学校適正配置について、ICT教育の取り組み状況について、中学校部活動の地域移行についてという3つの議題を用意してあります。是非この会が、今までのように、いつものように、思いを自由に述べていただいて、先ほど町長からも話がありましたが、一流の田舎町を目指している南部町のこれからの教育行政を推進するための充実した時間になればと思っています。それではこの後、限られた時間ですが、是非よろしくをお願いします。

4 議事

(1) 南部地区の小学校適正配置について

[初めに教育長が、南部地区の小学校適正配置について、令和8年4月の統合後の校舎については睦合小学校を使用することについて説明した後、第1回総合教育会議後からの毎月の定例教育委員会で協議してきた通学区域の在り方について、通学距離が増大する井出・十島地区の乳幼児及び児童がいる家庭に対し、教育委員会の職員が直接出向いて意識調査への協力依頼を行ったことについて説明しました。その後、学校教育課長が「井出・十島地区保護者意識調査」の取りまとめについて説明し、併せて調査結果に基づいた現時点での教育委員会としての通学区域の在り方についての考えを説明しました。]

【現時点での井出・十島地区の通学区域の在り方についての考え（案）】

井出・十島地区の居住者が就学する小学校は、富沢小学校とする。但し、当面の間（令和8年度に栄小学校に在籍している井出・十島地区の児童が小学校を卒業する令和13年度まで）、井出地区と十島地区は学校選択制とする。学校選択制とは、市町村教育委員会があらかじめ保護者に意見を聴取し、その意見を踏まえ、就学する学校を指定する制度。この案について出席者の意見を伺いました。

(町長) 選択肢が増えることによって教育委員会ではとても迷うと思います。私の考えですが、災害時のことを考えるとやはり近い方が良いと思います。子どもたちが離れ離れになることも分かりますが、小さい町ですから、そうでなくてもいろいろな交流がありますので、井出・十島地区の子どもさんたちには最初から富沢小学校に来てもらうようにしたらどうかと思いますが、皆さんはどうでしょうか。

(山本委員) 学校統合となると、地域の方も含めてとてもナーバスになると思うのですが、富沢地区が良い形で現在も進んでいること、統合の時にはいろいろな意見が当然にあったと思います。やはり問題は当事者の保護者の皆さんと子どもたちがそのことをどう受け止めるか、子どもですので精神的に不安定な状況になりやすいということ踏まえると、ある程度丁寧当事者の意向確認はした方が私は良いのかなと思います。人数的に少人数でも経費が掛かるということもありますが、良い形でソフトランニングできればと思います。

(教育長) 睦合小学校の校舎を使用することについては、前回のこの会でも話の方をいただきましたので、今日、特に問題になるのは井出・十島地区の児童の通学区域のことになります。

皆様からのご意見を聞く中で、方向性が見出せればと思います。

(望月(正)委員) 前回、富沢地区の統合が行われているので、そのことを踏まえなければならないと思います。山本委員が言われたように井出・十島地区の当事者の意向を尊重することが大切だと思いますので、今の案が良いと思います。

(渡邊委員) 教育委員会で協議した時には最初から富沢小学校へという案は出ませんでした。当事者も少なく、大きな町ではありませんので、選択制を一定期間とする但し書きはあった方が良いでしょう。

(望月(聡)委員) 私がもし当事者の親だったらどう思うか考えていました。令和8年度に井出・十島地区に6年生になる子が1人います。もし富沢小学校に行くのであれば、最後の1年だけお友達も変わってしまいます。親としては、それまで一緒に過ごしてきたお友達と卒業を迎えさせてあげたいなという気持ちになります。台風や災害時のお迎えもそうですが、皆さん習い事をしていて週に2・3回はお迎えという子どもが多くいます。やはりそうなるとうちでも近い方が親としては迎えに行きやすいのかなと思いますし、おじいちゃんやおばあちゃんでも迎えに行きやすい方が良いのかなと思います。

(総務課長) 子どもたちのことを考えると選択制に一定期間を定めた但し書きがあっても良いと思いますが、現実問題として当事者が別々の学校を選択した場合、スクールバスが2台必要になるのかなど、課題も出てくるのではないのでしょうか。

(事務局) 当事者が別々の学校を選択した場合、1台は、現在の陵草地区の子どもたちが利用しているタクシーを、それぞれの保護者の理解を得て利用できないか考えています。

(望月(正)委員) 陵草の子どもたちの家を出る時間が、極端に早くならなければ十分に対応可能だと思います。

(山本委員) 当事者の保護者の皆さんが、子どもをどちらの学校へ通わせたいか考えた時、そのような諸条件については十分に説明しておかなければなりません。こうなったらこうなりますというケースバイケースについて理解を得た上で、納得していただくことだと思いますし、保護者の方々にはこういうことはお願いをしなければなりませんということを事前に説明しておくことだと思います。それを踏まえた上で判断していただければと思います。

(教育長) これまでの皆さんのご意見から、井出・十島地区については、スクールバスの問題が残っていますが、当面は学校選択制とする方向性で考えていきたいと思っています。

(町長) 町営バスもそうですが、スクールバスについても効率的な運行を考えてほしいと思います。

(山本委員) 資料にある通学区域について、規則案の中の通学区域の居住地の最後のところにだけ及びが付くのはなぜでしょうか。

(秘書政策監) 規則とか条例で、文書法制という言葉を使うのですが、この様に連続した名詞をつなぐ時には、前段の全てを読点で結び、最後の手前に及びを付けなさいという一定の約束事があります。

(教育長) スクールバスの件については、新たな車両の購入や運行計画など、いくつかの課題がありますので、また皆さんのご意見を伺いながら検討していきたいと思っています。

(2) ICT教育の取り組み状況について

[学校教育課長より、ICT教育を推進するための教育委員会の取り組み状況及び学校が現在

行っているICT教育の授業内容等について説明しました。]

(町長) 先生方が子どもたちに教える場合に、どこに重点を持っていくのか、どの子どもたちを中心に考え授業を進めるのか、もう一つは、パソコンを使うことは良いとは思いますが、本当に理解できているのか、学力が付いているのか疑問に思います。そのためには、理解度テストなどを実施して南部町の子どもたちがどの程度、理解できているのか、そこまで掘り下げてほしいなと思います。

(山本委員) パソコンのリテラシーは、世界基準から考えると学校教育の中でも必須の要件だと思います。ただ、そればかりが良いかというと、どちらに振れるかですが、教科的にいうと私は社会ですので、調べるときにパソコンを使って疑問点を自ら追及して入っていく学習は当然に必要なようになってくると思います。その時にやはりアナログだと図書館で探してみるとか、あちらこちらに聞いてみるとか、どうしても調べるのに時間がかかります。そのような活動も必要なことだとは思いますが、一方で早く情報を収集する力も必要なようになってくる。そうすると合理的にどう学習するかということが必要になってきます。これからの学習については、どちらに振れるのではなく、両方の力を兼ね備えた能力が必要とされるでしょうし、自ら課題を発見して、その課題解決に向けて自分で探求していくこと、そして、他者と関わり合いながら情報交換をして自分の考えをまとめていくというスタンスだと思います。そうするとその様な授業を学校の中でも作らなければいけない。そうすると小学校の段階から操作をする指導が当然に必要なようになってくる。パソコンを活用しながらどのような学習をしようという動機付けになって、次にパソコンを家に持って帰ったときに自分で調べてみる。自分でまとめてみる。レポートを作る。という段階を求めているとは思いますが。それらを踏まえながら成長し、社会人として活動する。いずれにしても紙での教育がダメかという、そうではないという人たちもいるし、私も実はそう思うのですが、例えば語彙力というのはいったいどのように作られるかというと、やはり多くの言葉に出会わなければならないのですが、パソコンだとひらがなやカタカナを打てば、漢字がポンポンと出てきてしまいます。その漢字を手で書けるかというと非常に難しい、それはやはりある意味でいうと手で書いて覚える必要が出てくるし、読んで覚えることが必要になります。いろいろな研究があるので、一概にこれが良い、悪いということは言えませんが、いろいろな要素を子どもたちが経験していくことは当然にして必要であろうと思います。これから進んでいく一つのツールとして使っていく必要があるし、使いこなしていく世代に入っているのかなと思います。私もスマホを持っていますが、子どもたちに比べるとほとんど分からない。なにかピンチになると、どうしても他人を頼ってしまうのですが、今の子どもたちは既に慣れているので、ある意味でそのような力がもう付いているのかもしれない。さらに伸ばしてあげるということも大事なのかなと思います。そういう中でのギガスクール構想だと思います。

(事務局) 先生方の活用能力という部分も含めて、あらゆる場面で、研修会の開催や情報提供が必要であると考えています。今年度導入した授業支援システムには、付箋機能が付いていて、皆の回答を先生、児童生徒が共有でき、場合によっては児童生徒自らが、先に進めないよう端末をロックする機能も付いています。先生が授業を早く進めてしまうことによって、取り残されてしまう児童生徒が出てはいけないと思います。

(山本委員) システムの導入によって、子どもたちが理解している。理解していないが分かると思います。例えば理解している場合は次の段階へ進むことができると思いますし、戸惑って

いる子には先生が子どもの所へ行ってサポートすることができると思います。そのような活用ができていくということですので、個々の学習状況が把握できるということは最大の利点だと思いますし、それを次の学習にどう生かすかだと思います。

(望月(正)委員) どの子どもたちを中心に考え授業を進めていくかについては、全体に合わせることは絶対にできませんので、学習指導要領に沿って進めていくことになります。今のギガスクール構想では、端末で誰が理解していないか、理解しているかが分かると思いますが、問題は、理解していない子どもたちをどの様に指導していくかだと思います。これには時間的な余裕がないとできないと思いますし、そのことをどうしていくかだと思います。端末を扱うのと同時に、その様な手立てを講じていくことが大事だと思います。教育支援センターの私の隣にICT支援員がいますが良く研究をしています。悩みは得意な先生がいて、一方で一生懸命に頑張っている先生もいるし、少し難しいなと思っている先生もいるということです。少し難しいなと思っている先生のレベルをどうアップさせていくかということで悩んでいて、そのためにはどの様な研修をしたら良いのか、山梨大学の先生から話を聞いた方が良いのか、端末を使って実際に操作をして分からないところを教えた方が良いのかなど、いろいろと悩んでいます。南部町は、教育支援センターにICT専門の支援員がいて、他町にはないような形で進められているのはとても良いことだと思います。南部町は進んでいますし、恵まれていると思います。

(山本委員) ICT支援を専門に担っていただける方がいるということは、とても大きいと思います。資料をまとめるにも、研修、会議をするにも中心となる人がいないとなかなか難しいと思いますし、進まないと思います。各学校の代表だけが集まっても、それぞれの事情が違うので、やはり、取りまとめる方がいるということは大変大きな支えになっていると思います。支える人が悩みながらどう支えていくかということを考えているということは、とても大事だと思います。

(町長) 南部町は、他町にはないような特異性をもったやり方で進めることによって、他所から来る人たちに、南部町の教育はしっかりしているなと思っていただけるよう、益々、力を入れたいなという思いが芽生えてきました。

(渡邊委員) 自分の経験から言うと、僕らが若いころには授業を組み立てるのに、黒板に要点をまとめて書くとか、授業をどの様に展開していくか考えていました。私は退職してから小学校の英語を2年間、ALTと担任と一緒にデジタル教科書を使って教えました。やはり情報量が沢山あって、自分が集める資料がその中に全て詰まっていて、とてもやり易かった経験があります。感じたのは、若い先生方はそのまま使えるのですが、僕には、まだまだ上手くないこともありました。資料にもあるように、よく活用している先生と、あまり活用していない先生がいるようですが、ICT教育はこれから必須となります。先生方にはとても忙しいですが研修を積んでいただきたいなと思います。

話は変わりますが、端末を使いこなせるかは、大きく言えば経済格差にあると感じています。例えば、物を購入するにしても注文の仕方が分からない、ネットがないから注文ができない、情報量が少ない、旅行するにしてもネットでできるか、できないか、あるいは旅行会社に頼むか、これからはWi-Fi環境がない家庭、端末はあるけれども操作できない家庭の子どもたちには、経済格差が広がってしまうのではないかと懸念をしています。そういう意味でも子どもたちが基礎能力を身に付け、生活基盤を守る手段としての最低限のことは、学校

教育で教えてほしいなと感じています。

(望月(聡)委員) 私は教育委員になって2年目になりますが、今年の6月の学校訪問の時に初めてICTを使った授業を見ました。今までの授業参観では、教科書が大型モニターに映し出されていたのですが、その時には、子どもたちがパワーポイントのようなものを使って、資料を作って、それを抽選機能で選ばれた子どもが、端末を持って前に出て自分の画面をモニターに映して発表していました。それに対しての感想を子ども一人一人が付箋を貼って、皆の感想が聞ける授業内容を目の当たりにしてすごく驚きました。今までICTとは聞いていたのですが、親も子どもたちが学校で何をやっているのかをはっきりと分からなかったのですが、実際に見てみるとこういうことをやっているのだなと分かりました。もう少し授業参観や学校開放日とかの授業で親に伝えていくことも必要なのかなと思いました。そうすると親も家庭で、今日はこういうことをやったのと会話も広がります。このようなことは子どもの方がはっきり言って得意だと思いますし、私のスマホも子どもの方がいろんな機能を使いこなせているので、親と一緒に巻き込んでいった方が良いと思いました。

(山本委員) 皆さんの意見をいろいろ聞いて思ったのは、力をつけていくのは良いのですが、その情報をどう取り入れるかという力を付ける必要があると思います。ネットに出てくる情報が果たして正しいかどうかということ、疑いを持てるような力を付けなければならないと思いますし、パソコンというよりも、今はスマホの時代になって、どんどん情報が流れて来ます。それを自分なりに違う視点を持つ、見る、多面的とか多角的とか、そのような思考を身に付けられるような教育を、大人、特に学校の教員が意識していかななくてはいけないのかなと思いました。何か災害があった時に、ライオンが動物園から逃げた写真がSNSで出て話題になりましたが、いとも簡単にその様なことができる時代になってしまって、フェイクニュースという言葉がありますが、それを判断できる力を、子どもも大人も身に付けていかないといけないと思いました。ですから、指導する体制をしっかりと作っていただくことが大切だと思います。

(望月(正)委員) フェイクニュースで思い出しましたが、子どもたちがスマホを自由に使いこなしているのですが、その様な中で気を付けていかなくてはいけないのは、技術とか技能を身に付けるのは良いのですが、それに対するセキュリティとか、モラルをもっと教育していかないといろいろな問題が出てくるのではないのかと思います。

(事務局) 情報モラルなど、端末を正しく使う能力を教育の中でもしっかりと身に付けさせることが大切だと感じています。

(教育長) デジタル化が進行している中で、新しい学習指導要領の方もそうですが、言語能力とか、読み書きそろばん、そういう能力以外に、新しく付け加えられた能力が、情報活用能力です。それに従って先ほども話がありましたが、今、学校の方ではICT教育が進んできていて、それと同時に、教育界の全体を見たときには、やはり令和の日本型教育というのが話題になるところです。そのテーマが、いわゆる個別最適な学びと協働的な学びです。先ほどから話が出ているように、ICTの関係とそうでないものとの兼ね合いをどのように取っていくか、その辺が大きなテーマになっています。しばらくこのICTの関係については、いろいろ研究とか、勉強が進んでいかなくてはいけない分野ですが、本当に肝心要の力が子どもたちに付いていかない事には困ります。その辺はしっかりと押さえながら今後、進めていくことになると思います。

(3) 中学校部活動の地域移行について

[初めに教育長が、これまでの経緯について説明しました。その後、学校教育課長が静岡市立蒲原中学校への先進地視察研修の様子と南部中学校との意見交換について説明しました。]

(教育長) この問題については、先が見えない状況であります。経費の問題、指導者のこと、中体連のことなど、見えない部分がありすぎて、現時点では話もこれ以上に煮詰まっていない状況です。しかしながら、教育委員会としても、関係者を集めて検討会を持ちながら、南部町に一つの南部中学校をたたき台にして、モデルにしながらどうしていったら良いのか、七つある部活動について、一つ一つ考えながら進めていったらどうかということで話しをしています。もう少し煮詰まってきたところで何らかの機会に皆さんにご相談をしたいと思います。皆さんの方からこの件について何かありましたらご意見を聞かせてください。

(山本委員) 部活動がいずれ中学校の現場からなくなるということだと思いますが、国とか文部科学省とかスポーツ庁などが受け皿となる総合型スポーツクラブとかスポーツ団体とか、そのような団体を立ち上げないことには、そこへ向かって子どもたちが参加していくというシステムはできないと思います。現状では、地域でどうにかしろといったような話になっているので、人材確保についても苦慮することが目に見えていますし、そうなってくると、経費はどうするのか、保険はどうするのか、送迎手段はどうするのかなど、細かいことばかり出てきて中々まとまらないと思います。良いと思うのは峡南5町の中に総合型スポーツクラブがあって、縦長なので難しいとは思いますが、各地に点在していて、多少なりとも中学生が通えるようなクラブがあれば良いのかなと思います。現実的に今、先生方が抱えている部活動は自分もそうでしたが、顧問になれば土日は、ほぼ半日は学校にいる状況は免れないと思いますし、練習しなければならない、試合もあるとか、それが学校現場から離れていくということになると、先ほどのICTではないですが、より学習というものに、また、人材育成というものにシフトできるのかなと思います。是非、上手くいってほしいなと願っています。どういう形ができるかももう少し国が本腰を入れて、財政的な支援を継続的にしていただけるのか、問題なのは文化部がなかなか難しく、吹奏楽部は特に思うのですが、地域に指導者がいるかとなると中々難しいと思います。細かいことを言うといろいろと問題があります。

(教育長) 経費のことや人材確保のことについては、国から示されたガイドラインには載っていますが、まだ案となっています。これから皆さんの意見を聞く中で、ある程度は固まっていくとは思いますが、今はまだ先の見えない状況ですので、こんなことが問題となっているということをご承知ください。

(望月(正)委員) 部活動の地域移行については、今は土日だと思いますが、将来的には平日も含め移行していく方向だと思います。地域移行に至った経緯は、少子化と教員の負担増だと思います。個人的には地域指導者と教員の連携さえ取れば、土日だけでも良いのではないかと考えています。

(渡邊委員) 将来的には平日も地域移行ということですが、再任用の先生方を活用できないかと思います。ボランティアでお願いするのでは人材確保が難しいので、業務、仕事として給料を与える。その代わりに責任をもって担ってもらうことが出来ないか、例えば退職した先生の中には力を持った先生方がいますので、給料を与えて部活動で再任用をお願いする方法が良いのではないかと思います。

(町 長) この問題については、新聞の記事を見たときに非常に難しい問題だと感じました。特に南部町のような地域では指導者の人材確保が難しいと感じています。南部中学校の生徒の数も将来的には今よりも減ってきますので、現状の部活動を存続できるかといったことについても考えていかなければならないと思います。

(教育長) この問題については、今後の定例教育委員会の中でも検討していきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

(4) その他

[学校教育課長が県から依頼があった、新型コロナワクチンの5歳から11歳の子どもへ接種について、県が作成したリーフレットを基に教育委員会としての対応を説明しました。]

5 閉 会 (望月(正)委員)

長い時間ご協議いただきありがとうございました。この会議にいつも出て感じるのは、他の地域に比べすごく教育に対する熱、思いを感じています。特にICTの端末の導入もそうですが、人的な配慮がすごいなと思っています。これも町の皆さんの思いの賜物だと感じています。過日、富沢小学校の学校運営委員会で私は会長で参加しましたが、そこで話題になったのが、あいさつのことでした。学校では、集会の度に子どもたちに話をしていますが、私達も道端に立ちながら旗を振りながらあいさつをしています。子どもたちも非常に良くあいさつをしてくれますが、個人差がすごくあるなと感じています。これを全体的に盛り上げていくためには、親が、地域の方々がしないといけないのではとの話で、1時間ほど話し合いました。もっと親が分かるような広報活動をしたり、のぼり旗も役場の前だけでなく、もう少し増やしあちらこちらに付けてみたり、後は、町の広報紙に掲載したり、FM告知端末で放送してみてもどうかなど、親の方から話が出ました。いずれにしても、親も行政も学校も南部町をより良い町にしていこうという点では一致していますので、これからも教育委員会の一員としてがんばっていきたいなと思います。今日はありがとうございました。